

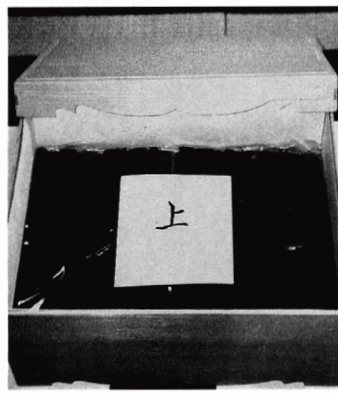


毎月十五日発行 所 社 会 像 宗 像 定価 一年送料共 1000円

神具・装束 結飾式場用品 株式会社 井筒 本店 福岡店 電話 京都(075) 三三四一三四一

玄海若布を献上

早春の海幸を誠心誠意奉製



玄海の荒磯で採取された 早春の若布を皇居賢所 天皇・皇后両陛下、並びに皇太子殿下へ献上し上げる

者を中心とする「海洋神事奉賛会」が結成されて以降、毎年行われている皇太極恒例の重儀で、今年で三十回目を迎えた。

春の足音が聞こえてくる。本年の献上若布奉持者は左記の通りである。宗像大社宮司 兼 養父守 権柄宜 伊藤佳和

大島 節子 白布敷く如く陽並み 忽ち高く鳥柱たつ (詩) 波に浮く鴨の群が鳥柱となつて立つまでの時間

今年も「建国記念の日」がめぐってくる。この日は「建国をしのび、国を愛する」という趣旨が法律に謳われているが、近頃の日本人は、

「若布献上の儀」は、暖冬の上 天候にも恵まれて、若布も順調に生育し、海洋神事奉賛会々員の中から選ばれた人々々が誠心誠意を込めて、奉製された潮の香りも清々しい板子若布が二月十四日、予定通りに六漁業協同組合より取られた。

「建国をしのぶ」記念の日 神武天皇の即位を、紀元前六六〇年、辛酉の年正月朔日とする考えも、7世紀初めころ生まれたものであろう。

神武天皇の即位を、紀元前六六〇年、辛酉の年正月朔日とする考えも、7世紀初めころ生まれたものであろう。この「神武天皇」は、皇紀に対する批判的な文脈の中で引用されている。

神武天皇の即位を、紀元前六六〇年、辛酉の年正月朔日とする考えも、7世紀初めころ生まれたものであろう。この「神武天皇」は、皇紀に対する批判的な文脈の中で引用されている。

神武天皇の即位を、紀元前六六〇年、辛酉の年正月朔日とする考えも、7世紀初めころ生まれたものであろう。この「神武天皇」は、皇紀に対する批判的な文脈の中で引用されている。

神武天皇の即位を、紀元前六六〇年、辛酉の年正月朔日とする考えも、7世紀初めころ生まれたものであろう。この「神武天皇」は、皇紀に対する批判的な文脈の中で引用されている。

「おそろく東洋のこのような情勢を背景にして、大きな古墳の集中して大和を中心とした畿内の豪族たちが、連合して大和政権をつ

「おそろく東洋のこのような情勢を背景にして、大きな古墳の集中して大和を中心とした畿内の豪族たちが、連合して大和政権をつ

「おそろく東洋のこのような情勢を背景にして、大きな古墳の集中して大和を中心とした畿内の豪族たちが、連合して大和政権をつ

「おそろく東洋のこのような情勢を背景にして、大きな古墳の集中して大和を中心とした畿内の豪族たちが、連合して大和政権をつ

「おそろく東洋のこのような情勢を背景にして、大きな古墳の集中して大和を中心とした畿内の豪族たちが、連合して大和政権をつ

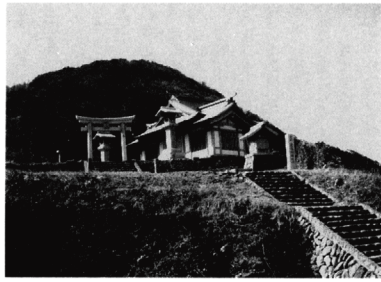
「おそろく東洋のこのような情勢を背景にして、大きな古墳の集中して大和を中心とした畿内の豪族たちが、連合して大和政権をつ

「おそろく東洋のこのような情勢を背景にして、大きな古墳の集中して大和を中心とした畿内の豪族たちが、連合して大和政権をつ



# 中津宮だより

## 沖津宮遙拝所 装いも新たに



昭和四十九年屋根葺替等の工事が行われたが、最近損傷がひどく、此度の工事となった。

沖津宮は、大島の西北海上四十九キ、玄界灘の真只にボツと浮ぶ絶海の孤島、沖ノ島に鎮座する。たやすく祭祀のために参向、或いは参拝することができない。

### 一足早い成人式

平成四年新春の一月二日、全国の成人式に先がけて、大島村の成人祭が午前十一時より氏神様の中津宮に於て厳粛に斎行された。



大島村では、島を離れて進学、或いは就職する若人が多く、成人式も例年若人の里帰りを正月一日に執り行われている。

# 孔大寺神社例大祭

宗像郡の東北に、蒲川山孔大寺山、金山、城山と四山が聳え、この山脈を別名四塚連山と呼ぶ。四塚連山の最高峰が孔大寺山である。孔大寺神社はこの孔大寺山の山腹に鎮座して御祭神は大己貴命・少彦名命で、毎年三月二日に例大祭が斎行されている。今年も当大社より厳格使として神職一名が参向、幣帛を供進した。

### お詫び

先月号に掲載しました、「献茶奉告祭」の記事で、永年勤続表彰を受けた入江太郎(安海町)の誤りをお詫び申し上げます。

# 奈良三彩小壺の用途は 樂 杏 子

沖ノ島奉獻品「奈良三彩有蓋小壺」は、高さ五・六釐、口径一・三釐の陶器である。緑・黄・白の三色が配され、別名を正倉院三彩と言います。奈良時代遺物によって將來に伝承された唐三彩(緑・黄・白)を模して、日本で製作された最初の多彩陶器である。

# 建国祭齋行

### 我が国の創始に思いを馳せ

二月十一日の「建国記念の日」、我が国の誕生を祝う建国祭が厳粛に斎行された。当日は、好天の暖かな一日となり祝日の境内は家族連れなど、多くの参拝者で賑いを見せた。

# 新出光初午祭

### 社運隆昌と社員の健康を祈って

福岡市に本社を置く株式会社新出光(代表取締役社長長出光豊臣)の社屋に鎮座する「新出光稲荷神社」の初午祭が、去る二月十二日午前十一時より厳粛に斎行された。

# 宗 像 大 社

### 春まつり(保存会)御案内

春の大祭を左記行事日程で斎行致しますので、皆様方お誘い合せの上、御参拝下さいませ。御案内申し上げます。

三月三十一日	午後五時	総社地主祭
四月一日	午後六時	宵宮祭
	午後七時	大原(氏子奉告、浦安舞)
	午後八時	地方風俗節、浦安舞
二月	午前十一時	総社祭(献上若布採取者表彰)
	午後十二時	宗像護国神社祭
	午後二時	高宮祭
	午後三時	第一・第三宮祭
	午後四時	献茶祭(南坊流小方社)
	午後五時	奉納吟詠大会(於清明本殿)
四月四日	午前十時	奉納吟詠大会(於清明本殿)



# 宗像地区の国際交流

## 宗像市・玄海町の姉妹縁組



経済・文化を始めあらゆる面で、地球的規模での対応が必要となつて今日であるが、古来我が国の表玄関として、その重要な役割を果たしてきた「宗像」が、最近とみに盛んなとなっている。

宗像地区の行政や諸団体が、地域の国際化または国際交流を図る目的で、協同或いは独自に諸外国との交流を深めている中で、玄海町が推進していた「宗像」道城山岳との友好交流が合意に達し、昨年十一月廿日、同時に城山岳より高宮仁長を始め関係者七名を迎え、友好交流合意書調印式が行われた。

玄海町では、平成元年十月、同町の鐘崎漁業協同組

## 地元酒造が酒蔵開放

### 左党の見学者で大いに賑う

当大社御神酒の醸造元、勝屋酒造(宗像市赤間・山本博次)と伊豆本店(宗像市武丸・伊豆善也)で二月初旬に恒例の蔵開きが行われ、両酒造とも多数の愛飲家が訪れ大いに賑った。

一月一日に酒蔵を開放した勝屋酒造では、長年の酒造りの歴史を物語る製造場、精米から洗米・蒸米、そして発酵、搾りまでと清酒の醸造過程を披露、日本酒が杜氏さん達の苦労と酒造りにかける心意気で醸造されていることを理解してもらった。また、搾りたての生酒、酒米の精白度を高めた吟醸酒、醸造用アルコールを香味の調整程度にブレンドした本醸造酒など



どの利き酒大会も催され、訪れた左党がさかんに挑戦していた。

一方、二月八・九日に蔵開きを行った伊豆本店にも、地元左党はもとより福岡、北九州、遠くは関西より地酒ファン約三三人が訪れた。

昨年暮れに仕込んだ新酒の香りが漂い、威勢のよい酒屋の流れる酒蔵で、酒を濾過する昔ながらの搾り(ふしぼり)が実演され、搾りたての新酒を口にした人々から「美味い」との声が上っていた。

搾りたては、発酵した酒を目的の粗い布袋に入れて、ふるふる桶のような槽に積み重ねて酒を濾す。我が国伝統の醸造方法で、日本酒本来の風味が損なわれず、非常に美味しい酒が醸造できる。

日本酒の等級が廃止された上、食文化の変化により、美味しい酒しきさに残れない時代を迎えたといわれる今日、両酒造とも地酒醸造元ならではの吟醸酒や純米酒などに力を入れ、日本古来の酒造りに励んでいる。

合が城山岳の城山浦水産業協同組合との姉妹縁組を締結、両漁協を中心とした民間交流が行政に二歩先んじて行われていた。その後行政サイドでの交流も盛んとなり、同三月、白木助役を始め関係者が城山岳を訪問、友好交流へ向けての協議を行い、七月には和町町長以下十名が同地を訪れ、正式調印となった。

同町では、「城山岳」とその産業形態、文化形態など類似する点が多々ある上、古来より相互交流も盛んに行われていたと推測される」と認識、今後更に交流を深めたいと願っている。

今回の調印に於ける合意事項は、「産業・経済交流」「学術・文化交流」「スポーツ交流」「教育交流」「青少年・婦人交流」「行政間交流」の六項目の内、実現可能なものから段階的に実施していく方針。

一方、宗像市も韓国釜海

## 津屋崎町

### 町民会館を建設

津屋崎町津屋崎町(町長・占部真太郎)の町民会館建設工事が着々と進行、その完成が待たれる。

町民の社会福祉充実を目指す、各種の事業を行って行く町では、その核となる町の繁栄であった町民会館建設に着手、去る一月十六日に起工式を執り行い、工事に取付かされた。

町役場に隣接して建設される町民会館は、五百八の固定席に立ち見を加えると約六百十名が収容でき、楽屋二室、リハーサル室、特別室、母子室、文化ホール、視聴覚室(一)、研修室(大・中)、和室(二)、調理室、会議室、展示ホールからなる複合型ホール、健康増進室、健康相談室、健康指導室からなる健康センターと、三つの機能を有する複合センターである。

特に文化ホールは、宗像ユリックスのハイモ二ホールと同等の音響効果をと、町当局も最も力を入れており、九州芸工大藤原宗司教授の助言を受けて、残響時間をコントロールする音響可変装置を設備、最高の音響効果が発揮できるよう設計されている。

## 社務日誌抄

- 二月一日 月次祭
  - 沖繩石油精製(株)社長藤田三男氏外一名参拝
  - 城山興産(株)山本善所社長本満男氏外二十八名参拝
  - 出光エンジニアリング(株)次長松尾憲之助氏外一名参拝
  - 明光石油(株)社長松本道雄氏外八名参拝
  - 九州共立大学硬式野球部七十名参拝
- 二月二日 宗像記者クラブ懇談会
- 二月三日 節分祭
- 二月四日 航空自衛隊航空保安管制群司令一等等空佐佐保初男氏外一名参拝
- 二月六日 兵庫県神社庁兼父部支部長兼父神社宮司伊藤十蔵氏外四名参拝
- 二月十日 出光エンジニアリング(株)北海道事業所保全課長黒瀬俊之氏・出光エンジニアリング災害防止協議会・出光北道建設保安協力会十五名参拝
- 二月十日 千葉興産(株)代表取締役高田順甫氏外四名参拝
- 二月十日 航空自衛隊航空支援集団司令官空将石川吉夫氏来社
- 二月十五日 月次祭
- 二月十五日 宗像記者クラブ献上若布製作業取材
- 二月十五日 全日空スカイホテル「万葉の旅」二十名来社
- 二月十八日 若布献上祭
- 二月十九日 若布献上祭
- 二月二十日 出光クレジット(株)代表取締役松本伸一氏外一名参拝

## 沖津宮現地大祭

〔祭典案内〕

来る五月二十七日、筑前沖津宮(現宗像市)沖津宮において日本海海戦を記念し、恒例の国家鎮護現地大祭を厳行致しますので、参拝希望の方は御連絡下さい。

記

一、参拝日程

1月26日 火曜日

午後六時までに中津宮(筑前大島)に到着し届け出る事。受付後宵宮祭に参列する事。

2月5日 水曜日

午前六時大島出港。午前九時沖津宮到着。直ちに海水にて禊。午前十時祭典。午後一時沖津宮出港。回三時半大島到着。解散。

3 渡海船(大島)神楽船

大島発午後四時二十分 同六時

4 当日荒天等のため渡島不可能の場合は、大島の沖津宮通所に於て祭典を厳行致します。

一、要項

1 参拝者は沖津宮奉賛費として一名八千円をお納め願います。

2 五月二十日は大島にて宿泊。宿泊所、食事(弁当)は各自で御手配下さい。

3 乗船者数に制限がありますので、参拝希望の方々の内より当社で厳選の上決定致します。

4 年令七十才以上の方の渡島は関係船の運達によりお断り致します。

尚、長時間の乗船に堪えられない方や健康状態が良好でない方は、御遠慮願います。

参拝申込書、心得、要項等を用意しておりますので、返信用切手同封の上左記宛御申込み下さい。

一、申込先

福岡県宗像郡玄海町田島

宗像大社社務所 儀式課 沖津宮現地大祭係

電話 〇九四〇〇三三二一(代)

千八二一三五

FAX 〇九四〇〇三三二五

名参拝

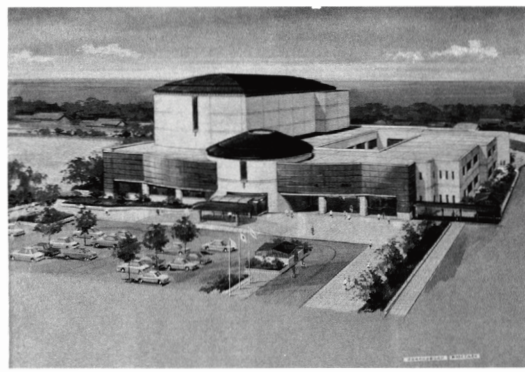
二月十一日 出光興産(株)大阪支店長小野勝男氏

二月十七日 宗像大社奨学会受給者選定委員長兵庫興産(株)代表取締役坂口昇氏・関西光運十一社参拝

二月二十五日 東京国立文化財研究所部長三輪嘉氏外二名来社

二月二十六日 大宰府市歴伊藤氏外一名来社

町民会館完成予想図





宗像大社歌会  
俳句作品集 三四八

藤沢 井上 玄洋  
早春の日射に跳ねる城の鯉

福岡 森 清  
うらるかやボールの白く流  
れつつ

ひかりヶ丘 南 風生  
水鳥や流れに托し身の静か

名古屋 小田 喜一  
朝夕のひざにしみる寒さ  
かな

名古屋 小田 留子  
子の家族かえりしあとの三  
日かな

田熊 安部 ゆき  
参道の梅白く咲き八重一重

自由ヶ丘 細川 絹子  
初雪や古桶の女の化粧水

福岡中央 九丸 玄風  
梅が香のたふよぶ気品藩主

日里 花田いつ枝  
音もなき水輪つくりて春の  
雨

津屋崎 西住喜三郎  
倦め見に漁港に群るる冬  
鷗

田熊 九丸 一郎  
小春日に命を預け夢現つ

福岡 二宮 末子  
靴持ち十歩あるいてジャン  
ケンポン

若松 井手 清隆  
和布刈炬を筒抱きに欄干に  
玉立ち



(続)  
浜の奇物  
64

北陸・山陰路 (二)



若狭・矢代の浦に漂着し  
の侍女達、言葉も通じず、  
長い旅に体も心も弱りきつ  
た唐船、王女をはじめ八人  
を岩陰や樹木の間から、じつ  
と見つめている浦人達。  
また恐ろしい、不安な夜  
がやってきた。月が雲に隠  
れた頃、浦人達は、めいめ  
い顔布を包んだり、顔に  
釜のススを塗ったり、シダ  
の葉を頭につけ、手には杵  
や棒を持ち、背を屈めなが  
ら、少しずつ選有船へ近寄っ  
ていく。

まつりと生活 (四十五)

神葬祭について

どんな人でも死を免れる  
ことはできません。この人  
の死に関する儀式を葬儀と  
いい、神道の形式によって  
異なる葬儀を神葬祭とい  
います。生まれてから死ぬ  
までの間に、古来から  
「古事記」や「日本書紀」  
などの古典にも、古来から  
の日本民族固有の葬祭の様  
子が記されています。それ  
が奈良時代以降、葬儀は仏  
教的葬儀の責任者にも  
ならなければならない、そ  
れほどの大役でもある。  
祭の行列は、手持棒振り  
と、二人の弓矢持ちと、唐  
人側の女侍(女房衆)と  
が、特別の興趣をかもし  
し、悲劇の主人公を演ずる。  
浦人の棒振りや弓矢持ち  
のいでたちは、編笠にシダ  
の葉を挿し、顔には墨えど  
りをした異様な姿に扮して  
殺戮の所作を演じる。これ  
に対して女侍側は、金袋  
に擬した頭巾をかぶり登場  
する。

これらの祭礼をすること  
によって、この惨劇を決し  
て忘れない、深い反省がこ  
められていて、浦人達のつ  
くないの意が表わされてい  
るという。

大櫛直、若狭組、女兒は  
矢代区の戸主、長男、娘に  
限られ、区の成員たるには  
この役儀を必ず経験しなけ  
ればならないとされてきた。  
もう一度、矢代を訪ね、  
手杖祭を實際に見たいもの  
である。

矢代から小浜市内に戻つ  
て、次に訪ねたのは、空印  
寺(市内男山町)の八百比  
丘尼人定地である。ここは  
人魚を食べて八百年間生き  
たと伝えられる八百比丘尼  
の最期の地とされる。  
空印寺(江戸初期創建の  
曹洞宗の寺)は小浜市の観  
光名所になっている。寺は  
整備され、新しく本堂や山  
門などが建てかえられてい  
る。すぐ左手のところに、  
八百比丘尼人定地(入寂  
仏教用語で死)がある。丁  
度正面から見ると、横穴式  
石室が開口している感じで  
ある。高さ一・五メートル、  
幅二メートル、奥行五メー  
トルの自然の岩窟であり、  
洞内にはボツボツと水  
滴が落ちていた。折口流だ  
と「したした」であらうか。  
若狭の八百比丘尼につ  
いて紹介しておこう。(八百  
比丘尼サミットパンフレッ  
トより)

むかし、若狭国に高橋権  
太夫という長者がおりました。  
国中の人達を招いては、  
ご馳走して自慢しておりま  
した。あるとき、「私の家  
にも来て下さい」と、海の  
向こうの主人から招かれて、  
権太夫は大喜びで船に乗っ  
て参列者が玉串拝礼を行いま  
す。同日に行われること  
が一般的です。通夜祭は、  
夜を徹して故人の霊をなぐ  
さめることです。還霊祭と  
は、故人の御魂を霊籠りに還  
す儀式です。板の前で還霊  
の儀を行い、霊籠りに別々に  
安置して置きます。この霊  
籠りは、翌朝、霊告に納め  
水く家の守護神としてお祀  
りします。

次に棺前です。これは  
葬送の儀を行うにあたり、  
その主旨を板前に奉告する  
儀式です。しかし、これは自  
宅で行われる場合は、葬儀  
の後に墓所又は火葬場に向  
かう場合に行われる場合が  
多く、一般的には省略され  
ることが多いようです。

この後、還霊が行われま  
す。百日祭の日から十日目  
ごとに祭りが行われます。  
まず、十日祭に始まり、二  
十日祭、三十日祭、五十日  
祭、百日祭となります。  
そして帰魂の日から一年  
後には、一つの大きな区切  
りとなりますので、還霊を  
行います。ことに一年祭は

出かきました。船の着い  
たところは、これまで見た  
こともない立派な屋敷でし  
た。沢山の御馳走が運ばれ  
て、権太夫は楽しく幾日か  
を過ごしました。  
「大婆ご馳走になりました  
。そろそろ国に戻ります  
。と言った、「それはまことに  
残念です。これはまことに  
料理を差し上げようとい  
うことになって、このすのこ  
に主人は残念そうに「これ  
は我が家の宝です。おみや  
げをお持ち帰り下さい。」と  
人魚の肉を権太夫に渡しま  
した。  
権太夫は家に帰ると、も  
つた土産を戸棚の中にし  
らべておいた。権太夫  
もおいしかったので、みんな  
食べてしまいました。とっ  
てそれか権太夫の娘は不  
思議に何年たっても美しい  
姿のままです。やが  
て、娘は知人もいなくなっ  
て、比丘尼となって旅に出  
ました。」

※写真は小浜の人形像

さる女は正直  
な娘、然も女  
心に富む者と  
して成人した。  
岡の黒田家  
老である黒田  
播磨(二万六千三百石)に  
知られた、同家に乳母とい  
うをつとめていた久野將監  
と、以後平常の生活に戻  
ります。なお、五十日祭を  
兼ねて、霊籠りを祖霊舎に  
合わせせる風習もあり  
ます。

神葬祭を参列した場合、  
注意することは、拝礼の作  
法です。二礼一拍手一札の  
作法は通常の参拝と同じで  
すが、拍手は忍手といって  
音を立てないように行いま  
す。この作法は一年祭まで行  
います。  
なお一年祭の後には、二年  
祭、五年祭、十年祭、二十  
年祭、五十年祭と祭儀が営  
まれます。

(Y.S.記)

宗像むかし話  
内殿の今丸さを女

明治元年は日本中のあら  
ゆるものが改革された年で  
あった。そのうち最も大き  
な事件は、それまでに延々  
二百五十年に亘って続い  
た徳川政権の崩壊、すなわ  
ち封建時代の終末であった。  
しかし明治の初年にはまだ  
幾らか古い影響が残ってい  
た。以下述べるころの  
「今丸さを女」の物語がそ  
れである。

彼女は文政  
十一年(一八  
二八年)四月  
に宗像郡西  
郷村内殿(今  
の福岡町の西  
に生れ、幼い  
時に両親を失  
い、祖母の手  
によって育て  
られた。祖母  
が余程した  
りとしていた  
のであろう。  
さる女は正直  
な娘、然も女  
心に富む者と  
して成人した。  
岡の黒田家  
老である黒田  
播磨(二万六千三百石)に  
知られた、同家に乳母とい  
うをつとめていた久野將監  
と、以後平常の生活に戻  
ります。なお、五十日祭を  
兼ねて、霊籠りを祖霊舎に  
合わせせる風習もあり  
ます。

神葬祭を参列した場合、  
注意することは、拝礼の作  
法です。二礼一拍手一札の  
作法は通常の参拝と同じで  
すが、拍手は忍手といって  
音を立てないように行いま  
す。この作法は一年祭まで行  
います。  
なお一年祭の後には、二年  
祭、五年祭、十年祭、二十  
年祭、五十年祭と祭儀が営  
まれます。

(Y.S.記)



家を取らなかつた。一身を  
奉公に捧げた彼女の決意は  
変わらなかつたのである。  
当時の士族たちは、下賜  
された奉還金を元手に商売  
を始めた者が多かつた。所  
謂「武士の商法」である。  
何れも一攫千金を夢みたら  
しいが、殆んどが失敗して  
家産を傾けた。久野將監の  
相続人である一枝もその例  
に恐れ感服したのであつた。  
後に主家の幼主を育成  
することが彼女の終生の  
仕事になつた。

彼女は信仰家で、毎月  
四日は愛宕神社に折袴  
断食をし、特に二十四日  
には覺寒を問わず水垢離  
を取って参籠した。折る  
ところは主家の安泰と幼  
主の無事成人のみであつ  
た。一方彼女には観劇の  
趣味があつた。その見る  
ところは忠節義理のさわ  
りで、特に千代萩、忠臣  
蔵を好んだ。彼女は、そ  
れらを唯見るのではなく  
て、感激し涙ののちであつ  
た。目に一字無くとも、  
さる女の人となりを知る  
ことが出来る。彼女は明  
治十九年六月、六十九  
才で歿した。戒名を智玉  
院真室妙三天姉という。  
郷里の内殿に墓があり、今  
に正直剛直の譽れを伝え  
「明治の政岡」と称されて  
いる。

おことわり  
執筆中田中政喜先生、  
病氣入院中につき、神  
宗像像をお休みし、し  
ばらくの間宗像むかし  
話を掲載させて戴き  
ますので御了承の程願  
います。